



12月になると、「ふたご座流星群」の見ごろがやってきます。毎年決まった時期にたくさんの流れ星がみられる「流星群」には、どうして星座の名前が付いているのでしょうか。

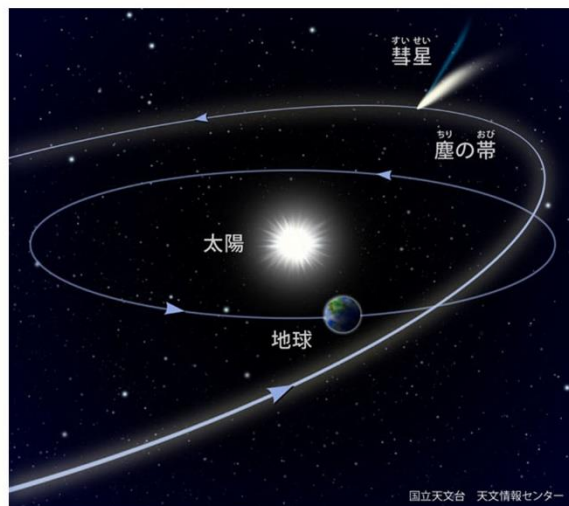
流れ星は宇宙を漂う小さなチリが地球の大気に飛び込み、大気とぶつかり光る現象です。

「彗星」と呼ばれる氷でできた天体の通り道には多くのチリが散らばっており、その中を地球が通過するとたくさんのチリが地球の大気にぶつかります。その様子を地上から見ると、「放射点」と呼ばれる空の一点を中心にして、流れ星が四方八方に飛び散るように見えます。これが流星群です。

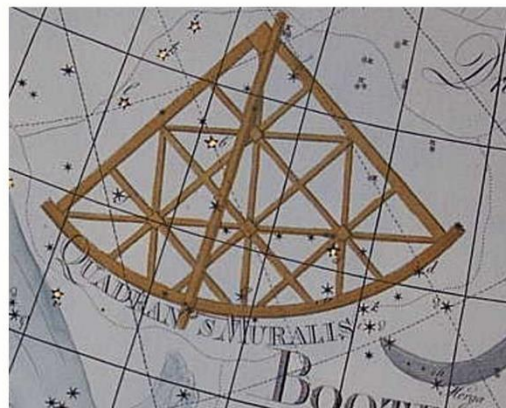
夜空に見える星座は神話の登場人物や動物を表すほかに、空の領域を示す「住所」としての役割もあります。放射点がある星座の名前を取り「〇〇座流星群」と呼ばれます。

ふたご座流星群は毎年安定して多くの流れ星を楽しめる「三大流星群」の一つです。「三大流星群」には、年明けすぐに見ごろを迎える「しぶんぎ座流星群」もありますが、「しぶんぎ座」は国際天文学連合が決めた88星座には含まれていません。放射点が「りゅう座」のあたりにあり、他のりゅう座の流星群と区別するため、かつて存在した星座「<sup>へきめん</sup>壁面四分儀座」の名前が使われています。

ふたご座流星群は12月14日の未明から明け方、しぶんぎ座流星群は1月4日の明け方が見ごろです。流れ星は放射点付近に限らず、空全体に現れます色々な星座を楽しみながら、流れ星を待つのもいいかもしれません。(原田)



国立天文台 天文情報センター



四分儀とは昔に使われていた、天体の高さを測るための道具です。(引用: Uranographia)

